

<p>●在宅療養の推進</p> <p>高齢者等が在宅で安心して療養できる体制を構築する。</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養希望者数の増加 ・在宅療養の実現が可能であると思う区民の増加 ・在宅看取り率の増加 	<p>【所管】</p> <p>地域医療課 高齢者支援課</p>
--	--	-------------------------------------

1 多職種連携強化

※ ①・・・28 年度から新たに実施する取組、【在宅】・・・在宅療養専門部会、【認知】・・・認知症専門部会

課題	取組	実施結果	成果指標	担当・所管
①医療と介護の連携	<p>事例検討会・交流会 4 回／年 事例集の作成</p>	<p>【実施回数】4 回（4 地区各 1 回） 【参加者数】延 327 名／381 名（参加率 85.8%）、傍聴 163 名 計 490 名（27 年度：4 回実施 453 名） 【参加職種内訳】ケアマネジャー31%、薬剤師 22%、看護師 18%、医師・歯科医師 4% 等 【実施テーマ】胃ろう造設の意味、多職種が関わるタイミング、視力低下独居の方への支援、“老々・認知介護” 【満足度】76%が「非常に満足」「満足」と回答 【他職種の理解度】77%が「他職種の理解が深まった」と回答</p>	<p>・多職種連携に対する意識 「多職種連携における自身の職種の役割の理解が深まった」77% 「他職種の理解が深まった」79%</p>	<p>【在宅】 地域医療課</p>
	<p>多職種連携研修 2 回／年</p>	<p>【実施回数】 一回 ※今後は事例検討会・多職種交流会等、類似事業との調整を検討</p>	<p>・多職種連携に対する意識</p>	<p>【在宅】 地域医療課 高齢者支援課</p>
②病院と在宅スタッフとの連携	<p>訪問看護同行研修</p>	<p>出前講座 ※要望により、1 か所実施 【実施病院数】1 病院 【参加者数】40 名 同行訪問 【実施病院数】4 病院（27 年度：3 病院） 【参加者数】30 名（27 年度：18 名） 【満足度】93% 【訪看業務に対する理解度】80% 振返研修 【実施病院数】1 病院（27 年度：1 病院） 【参加者数】12 名（うち訪問看護ステーションから 1 名参加） 【満足度】100% 【訪看業務に対する理解度】100%</p>	<p>・訪問看護業務に対する理解度 同行訪問 80% 振返研修 100%</p>	<p>【在宅】 地域医療課</p>
	<p>①退院支援の課題抽出</p>	<p>【意見交換会開催回数】8 回（4 地区ごと 2 回ずつ） 【参加職種】病院・在宅医・訪看・居宅・高齢者相談センター 【参加者数】各回 9～11 名</p>	<p>・調査報告書の作成 平成 29 年度 意見交換会終了（全 3 回／地区） 同年度内に報告書を作成</p>	<p>【在宅】 地域医療課</p>
③情報共有	<p>情報共有ツールの活用</p>	<p>医師会において、平成 28 年 1 月から試行的に実施。 ICT ツール（MCS）を使用するうえで多職種が感じている意見（肯定的・否定的含む）について、平成 28 年度第 2 回在宅療養専門部会で共有した。</p>	<p>・満足度（医療介護従事者、患者）</p>	<p>【在宅】 地域医療課</p>
	<p>連携シートの活用</p>	<p>高齢者相談センターおよび居宅介護支援事業所にて平成 27 年 11 月から 15,000 部配布中。 【周知】区民（区報、窓口、講演会等啓発事業で周知）、区内医療機関、民生委員（見本・案内を配付） 【寄せられた声】「認知症の方に限らず高齢者に必要」（病院連携室）「災害時に活用できる」（事連協） 「自分は必要となる」「一人暮らし、出歩くのも困難だけど使いたい」（区民） 「配布場所を拡大できないか」「お薬手帳との組み合わせはグッドアイデア」（薬剤師）</p>	<p>・連携における利用状況</p>	<p>【認知】 高齢者支援課</p>

2 サービス提供体制の充実

課題	取組	実施結果	成果指標	担当・所管
①人材の確保・育成	ケアマネジャー向けの在宅療養に関する研修	地域カンファレンス ※練馬、光が丘、石神井、大泉の4圏域で実施 【参加者数】 総計 164名 (内訳) 練馬:45名、光が丘:42名、石神井:32名、大泉:45名 【満足度】 99% (研修の理解)、100% (仕事への活用) 地域カンファレンス全体報告会 【参加者数】 122名 【満足度】 99% (研修の理解、仕事への活用いずれも)	・満足度 地域カンファレンス 99%~100% 地域カンファレンス全体報告会 99%	【在宅】 高齢者支援課
	⑨若年性認知症支援力向上研修	【実施回数】 1回 【参加者数】 26名 (ケアマネジャー12名 介護職12名 生活相談員1名 サービス提供責任者1名) 【満足度】 100% (研修の理解、仕事への活用いずれも)	・満足度 100%	【認知】 高齢者支援課 練馬区介護人材育成研修センター
②24時間体制・後方支援病床の確保	後方支援病床の確保	【利用者数】 延152件	・利用した在宅医の負担軽減度 医療・介護・福祉資源調査にてアンケート実施	【在宅】 地域医療課
③相談・診療体制の充実	医療と介護の相談窓口	在宅療養に必要な医療と介護のコーディネートのための医療・介護連携推進員の配置 (H27~) 【医療・介護連携推進員】 高齢者相談センター本所 4か所 【医療相談実績】 延3,065件 【退院カンファレンスへの参加実績】 93件	・医療・介護連携チームの編成数 医療・介護連携チームの構築 延138件	【在宅・認知】 高齢者支援課
	認知症相談事業の充実	専門医等による訪問相談および医療・介護のコーディネートのための認知症地域支援推進員の配置 (H27~) 【認知症地域支援推進員】 高齢者相談センター本所 4か所 【本所で受けた認知症相談】 延4,260件 【認知症相談事業協力医】 10名 【認知症相談実施】 4所×9回 【相談件数】 36回 98件 【訪問相談の実施 (初期集中支援チーム)】 24件 (医師同行7件内数)	・医療や介護サービスにつながった件数 医療機関との連携 延968件 ケアマネジャーとの連携 延1,143件 介護サービス事業者との連携 延625件	【認知】 高齢者支援課
④地域資源情報の提供環境の充実	地域資源情報の構築	医療と介護の情報サイトの開設 【掲載情報】 全種介護保険サービス事業所 (約1000件) 病院・診療所 (約500件) 訪問歯科診療所 (約90件) 訪問薬局 (約120件) 地域包括支援センター (29件) 生活支援情報 (約450件)	・満足度 「介護事業者の情報などを相談で活用している」 「サロン活動など、参考になる」 「訪問していただける近隣の歯科が見つかった」	【在宅・認知】 高齢者支援課 地域医療課
⑤介護老人保健施設の調査研究	⑨介護老人保健施設ワーキンググループの開催	事前調査 【実施回数】 1回 【参加職種】 病院 (看護師、MSW、リハ職)、居宅、在宅診、訪看、高齢者相談センター 【参加人数】 9名 ワーキンググループ 【実施回数】 3回 【参加老健】 区内全12法人 (理事長・事務長・理学療法士・ケアマネジャー等) 【参加者数】 各回11名~12名	・調査研究報告書の作成 平成29年度 報告書作成	【在宅】 地域医療課 介護保険課

3 区民への啓発・家族への支援

課題	取組	実施結果	成果指標	担当・所管
①区民への啓発	講演会の開催 大規模（全区対象）：1回／年 小規模（区内4地区対象）：4回	大規模 【参加者数】152名（27年度：142名） 【満足度（参考になった）】94% 【在宅療養希望者数】110名（79%） （「悩んでいる」「考え中」等の回答を除けば、92%の方が在宅療養を希望） 小規模 【総計】参加者270名、満足度92%、在宅療養希望者数168名/75%（無回答を除けば82%） 【参加者数】第1回：81名、第2回：71名、第3回：64名、第4回：54名 【満足度（参考になった）】第1回：96%、第2回：100%、第3回：86%、第4回：81% 【在宅療養希望者数】第1回：35名/71%、第2回：52名/81%、第3回：45名/73%、第4回：36名/75%	・在宅療養希望者数 練馬区高齢者基礎調査 高齢者一般 25.3% 要介護高齢者 31.1% これから高齢期 30.0%	【在宅】 地域医療課
	認知症講演会の開催 認知症フォーラム：1回／年 認知症地域講座：4回／年 若年性認知症講演会：1回／年 認知症の人の生活講座：2回／年	延参加者数 309名 認知症フォーラム 1回 【参加者数】61名 【満足度（良かった）】 93% 認知症地域講座 4回 【参加者数】121名 【理解度（わかりやすかった）】 94% 若年性認知症講演会 1回 【参加者数】44名 【理解度（参考になった）】 90% 【認知症の人の地域生活】 生活講座にて地域密着型サービスを紹介 2回 【参加者数】76名 【理解度（参考になった）】96%	・認知症に対する理解度 ・認知症に対する理解度 ・若年認知症に対する理解度 ・認知症の人の地域生活に対する理解度	【認知】 高齢者支援課
	区民啓発ガイドブックの活用 ・在宅療養ガイドブック ・認知症ガイドブック	在宅療養ガイドブック 【発行部数】42,000部（27年10月～） ※12,000部増刷内数 【出張勉強会】1回（1町会） 認知症ガイドブック 【発行部数】33,000部（28年3月～） ※3,000部増刷内数 【配布先】(1) 高齢者向けの区立施設 (2) 医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション、病院 (3) 町会・自治会 【学習会】12回（地域団体等）	・在宅療養に対する理解度 練馬区高齢者基礎調査 在宅療養が難しいと思う理由 「在宅でどのような医療や介護を受けられるかわからない」 高齢者一般 22.4% 要介護高齢者 20.0% これから高齢期 12.4%	【在宅・認知】 地域医療課 高齢者支援課
②地域資源情報の提供環境の充実	地域資源情報の構築（再掲）	医療と介護の情報サイトの開設 【掲載情報】全種介護保険サービス事業所（約1000件） 病院・診療所（約500件） 訪問歯科診療所（約90件） 訪問薬局（約120件） 地域包括支援センター（29件） 生活支援情報（約450件）	・満足度 「介護事業者の情報などを相談で活用している」 「サロン活動など、参考になる」 「訪問していただける近隣の歯科が見つかった」	【在宅・認知】 高齢者支援課 地域医療課
③地域における支え合いの強化	認知症の人や介護家族への見守りの推進	【認知症サポーターの養成と活用】認知症サポーター養成 112回 3,555名 累計20,401名 ステップアップ講座参加者 3回 140名	・事業への認知症サポーターの参加 ステップアップ修了者中、区の見守り事業等への協力者 累計32名	【認知】 高齢者支援課
④在宅生活支援の充実のための取組	介護なんでも電話相談	毎水曜日実施 52回 134件 【相談者の声】「(介護の悩みを) 聴いてもらうことで整理ができる」(リピーター) 「(介護の悩みを) どこに相談すればよいかわからなかった。助かった」 「(介護の) 苛立ちを治めることができた」	・満足度	【認知】 高齢者支援課
	介護家族の学習・交流会	2日制4回 125名 随時家族会パートナーへの支援	・満足度（負担感軽減） ・家族会や高齢者相談センターの利用	
	認知症の人の生活講座（再掲）	【認知症の人の地域生活】 生活講座にて地域密着型サービスを紹介 2回 【参加者数】76名 【理解度（参考になった）】96%	・認知症の人の地域生活に対する理解度	

4 在宅療養の現状の経年的把握

課題	取組	実施結果	成果指標	担当・所管
①在宅療養資源に対する課題の把握	医療・介護資源調査の実施 ・関係者へのアンケート 1回/3年 (在宅療養推進事業計画に併せ実施)	※平成29年度の実施を予定	・医療・介護資源の増加数、増加割合 ・在宅療養の充足度の変化 平成29年度 実施	【協議会】 地域医療課
②看取りの実態の把握	死亡小票分析の実施 1回/1年	【分析年次】平成26年～平成27年 【分析対象】人口動態調査死亡小票、患者調査、医療施設静態調査 【分析項目】・自宅での看取り件数の変化 ⇨ 在宅療養の普及度 ・入院患者の住所地の把握 ⇨ 病床看取り可能数の推計 ・在宅療養支援診療所・病院の届出状況等の把握 ⇨ 在宅支援診療所等の資源量 等々 【在宅看取り数(率)】2013年から2015年までで24件(5.3%)増加 【在宅看取り医療機関数(率)】2013年から2015年までで7件(9.5%)増加	・在宅看取り数、看取り率の増加割合 在宅見取り数 平成27年480人 在宅見取り率 10.1% ・在宅看取り医療機関数、増加割合 区内在宅見取り医療機関数 81か所 増加割合 9.5%増 区内医療機関在宅見取り数 354人 区内医療機関在宅看取り率 73.8%	【協議会】 地域医療課